関東ふれあいの道 埼玉県 NO.７「長瀞の自然と歴史を学ぶみち」（会山行）

（報告）FT

◎期日：2025 年 1 月 26 日
◎メンバー：FT(幹事・L)、SM(記録)、IK

長瀞の川の名前は？ パッと思い浮かばなかったので検索してみると、甲武信ヶ岳を源とする「荒川」であった。甲武信ヶ岳は甲州の「笛吹川～富士川」、武州の「荒川」、そして信州の「千曲川～信濃川」の源として知られているが、いずれも大河である。荒川のこの付近は瀞が長く続くことから、地名が「長瀞」になったそうだ。小生は地質学にも疎いが、長瀞は地球の窓、日本地質学発祥の地、とされているとのこと。岩畳や虎岩、秩父の赤壁等を観に来る方も多い。

長瀞の岩畳です。観光の方が大勢来ていました。

予定通り起点の上長瀞駅を 9:50 頃スタート。まずは岩畳を観に行った。すぐに小径を歩くようになった。対岸にはこれが秩父の赤壁と言われるものかよくわからなかったが、切り立った岸壁が見える。しかし顕著な岩畳らしきものに出会えないまま切り上げることにした。取りあえず車道に出て、長瀞駅に向かい、「郷土史料館」をめざした。なにせ本日は、14 時頃には長瀞駅に着きたいのであまりのんびりはしていられない。宝登山神社の参道はとても広い。途中で郷土史料館、及び隣接の旧新井家住宅にも立ち寄った。郷土史料館では太古からの長瀞町の特色が説明されていた。

秩父地方の古の養蚕農家です。珍しい板葺屋根です。

また「地球の窓」と言われる地質の資料なども紹介されていた。旧新井家住宅は、国指定の重要文化財で、徳川時代に名主をつとめた旧家とのこと。養蚕農家だそうで、屋根が板葺で石が置かれているのが珍しかった。現在では秩父で板葺屋根が残るのはこの住宅のみとのこと。

大急ぎで長瀞の自然と歴史をほんの少し学び、ようやくハイキングを開始する。宝登山神社を過ぎ、宝登山への登山道に入る。道は高尾山の１号路のように広くてよく整備されている。つづらおりが延々と続くようだが、すぐにショートカットする道があった。つづら折りを竹串で刺すように、ほぼ直線的に付けられている。細くて急だが、距離も時間も短縮出来る。登り着いた宝登山神社の奥社は、参拝の方が列を作っていた。我々も並んで参拝した。山頂はすぐ先にあったが、山頂に至る付近は蝋梅が咲き乱れていた。蝋梅を愛でてランチとしたが、山頂付近からの展望も良く、武甲山はもとより、両神山も良く見えた。

奥社での参拝は行列で、順番待ちです。

お腹が満足したところで、蝋梅をゆっくり愛でながら下山開始とした。奥社を過ぎると、降りもショートカットコースをどんどんと下った。その結果、長瀞駅には 13:20 頃到着。ここで解散とした。帰路を急ぐ IK さんは予定より一本前の電車に乗れてひと安心であった。

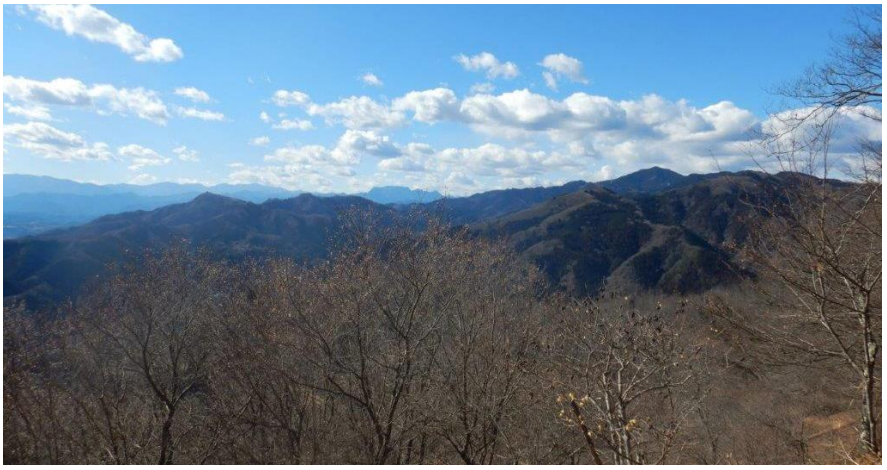
小生と SM さんは、改めて岩畳を観に行った。岩畳は長瀞駅から近いところにあり、多くの観光客が観に来ておられた。何故このような岩が出来たのか、不思議ではあった。

好天気のもと蝋梅を愛でられ、少しではあったが長瀞の自然に接することも出来て、良い一日であった。

（コースタイムは省略）

山頂付近の蝋梅です。とてもきれいでした。

宝登山　山頂です。



山頂付近からの展望の一枚。中央奥が両神山です。

以上